

■羽田盃 (SI) アラカルト (過去全 62 回の分析)

※第 1 回 (昭和 31 年) から第 8 回 (昭和 38 年) までは「大井杯競走」の名称で実施

※第 1 回 (昭和 31 年) から第 11 回 (昭和 41 年) までは大井ダ 1,800m で実施

※第 12 回 (昭和 42 年) から第 40 回 (平成 7 年) までは大井ダ 2,000m で実施

※第 41 回 (平成 8 年) から第 43 回 (平成 10 年) までは大井ダ 1,800m で実施

※第 44 回 (平成 11 年) から第 46 回 (平成 13 年) までは大井ダ 1,600m で実施

※第 47 回 (平成 14 年) から第 48 回 (平成 15 年) までは大井ダ 1,790m で実施

※第 19 回 (昭和 47 年)、第 57 回 (平成 24 年) は 2 頭が 3 着同着

※記録は平成 30 年 4 月 18 日時点

■上位人気馬が非常に堅実

単勝 1 番人気馬は 28 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 67.7%、単勝 2 番人気馬は 24 勝、2 着 15 回、3 着 7 回で、3 着内率が 74.2%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 14 回、3 着 15 回で、3 着内率が 51.6%となっている。上位人気に推された馬、特に単勝 1~2 番人気馬の活躍が目立つレースだ。

■過半数の回で 3 番人気以内の 2 頭がワンツー

過去 62 回のうち 55 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 32 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 14 回ある。

■“無敗”で優勝を果たした馬は 6 頭

2 着以下に敗れた経験がない馬の優勝例は、第 27 回のホスピタリティ (7 戦 7 勝)、第 32 回のシナノデービス (4 戦 4 勝)、第 38 回のブルーファミリー (6 戦 6 勝)、第 42 回のキャニオンロマン (4 戦 4 勝)、第 45 回のイエローパワー (3 戦 3 勝)、第 46 回のトーシンブリザード (4 戦 4 勝) と、これまでに 6 例ある。

■牝馬は5勝、外国産馬は1勝

牝馬の優勝例は、第4回のハルセキト、第26回のコーナンルビー、第34回のロジータ、第37回のカシワズプリンセス、第56回のクラーベセクレタと、これまでに5例ある。なお、外国産馬の優勝例は、第50回のシーチャリオットのみだ。

■的場文男騎手は歴代最多勝まであと1勝

騎手別の勝利数を見ると、7勝の赤間清松騎手が単独トップ。的場文男騎手が6勝で単独2位、石崎隆之騎手が4勝で単独3位となっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「7」

調教師別の勝利数を見ると、出川己代造調教師が7勝で単独トップ、川島正行調教師が4勝で単独2位、竹内美喜男調教師が3勝で単独3位となっている。

■3枠ほか中心寄りの枠番が優勢

枠番別勝利数を見ると、3枠（16勝）が単独トップ。4枠と5枠（各9勝）が2位タイ、6枠（8勝）が単独4位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、3番（10勝）が単独トップ。4番（7勝）が単独2位、9番（6勝）が単独3位だ。なお、未勝利の馬番はないが、2番、13番、14番、15番、16番はそれぞれ1勝ずつにとどまっている。

<伊吹雅也>